

研究・調査報告書

報告書番号	担当
540	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Associations between headache and stress, alcohol drinking, exercise, sleep, and comorbid health conditions in a Japanese population. 頭痛とストレス、飲酒、運動、睡眠、健康状態との関連 日本人における検討	
執筆者	
Yokoyama M, Yokoyama T, Funazu K, Yamashita T, Kondo S, Hosoai H, Yokoyama A, Nakamura H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Headache Pain. 2009 Jun;10(3):177-85. Epub 2009 Mar 27.	
キーワード	
飲酒 性別 頭痛 健康状態不良 ストレス	
要 旨	
目的： 頭痛と様々な生活習慣、健康状態との関連を検討する	
方法： 健康診断を受検した日本人 12,988 人 (男性 5,908 人、女性 7,900 人) を対象として自記式質問票による横断研究を行った。	
結果： 男性 5.4%、女性 15.4%が頭痛持ちであると報告した。若い対象者ほど頭痛持ちである傾向があった。頭痛持ちの傾向は男女ともに、ストレスレベルとともに増加し、ストレス発散能力とともに減少していた。男女とも、飲酒量は頭痛持ちと負の関連を認め、運動不足と睡眠障害は頭痛持ちと正の関連を認めた。多変量ロジスティック解析では年齢、ストレス認識、健康状態不良指数は頭痛との関連を認めた。また、飲酒量が少ないことも頭痛との関連を認めた。	
結論： 頭痛持ちは女性に多いと推測されるが、日本人では頭痛と関連する要因は男女ともに、年齢、ストレス、健康状態不良、飲酒量、睡眠運動であり、男女に差異を認めなかった。	